授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第９号

精神科看護師の批判的思考態度を促進するためのリフレクションを用いた教育プログラムの開発　－統合失調症患者の身体症状の判断に焦点をあてて－

(Development of an education program based on reflection aimed at promoting psychiatric nurses' attitude toward critical thinking -Focusing on the determination of the physical symptoms of patients with schizophrenia-)

池内　彰子（いけうち　しょうこ）

博士（看護学）

論文内容の要旨

【目的】

本研究の目的は、精神科看護師が、統合失調症患者の身体症状を批判的思考に基づき正確に判断するために、批判的思考態度の向上をめざした教育的な介入を試み、その効果を検証することである。

【方法】

最初に予備研究として、精神疾患患者の身体症状の的確な判断に必要とされている精神科看護師の批判的思考の重要性を示唆した先行研究に基づき、精神科看護師の批判的思考態度の関連因子を自記式質問紙調査で明らかにし、教育プログラムで焦点を当てる因子を明確化した。

次に、それを基に精神科看護師の批判的思考態度を促進するための教育プログラム案を作成した。教育プログラムは Bulman(2013)のリフレクティブサイクルを理論的な基盤とし、統合失調症患者の身体症状を判断した場面をリフレクションする内容とした。リフレクションにおける分析の視点は、予備研究で批判的思考態度の関連因子として明らかにされた看護師の倫理的感受性に焦点をあて、患者の捉え方の偏りに気づき、自分の思考を内省する内容とした。

介入は準実験研究(1群事前事後テスト)デザインとし、身体科臨床経験のない精神科臨床経験が５年未満の看護師 23 名を分析対象とした。評価は、介入前・介入直後と１ヶ月後に、批判的思考態度尺度・一般性自己効力感尺度(以下、GSES)等を測定するための調査を実施した。さらに、介入1か月後に教育プログラムの参加者 10 名を対象に、統合身体失調症患者の身体症状の判断の内容を質的に把握するための半構造化インタビューを実施した。

【結果/考察】

介入直後、介入１ヶ月後ともに、批判的思考態度尺度下位尺度「懐疑的態度」が有意に上昇し、批判的思考の内省力の促進が示された。また、GSES 下位尺度「行動の積極性」が有意に上昇し、物事に対する能動的な変化がみられた。このことは、半構造化インタビューの結果、コアカテゴリー《リフレクションによる変化》が形成されたことで裏づけられた。しかし、介入１ヶ月後には「行動の積極性」に有意な低減が示された。

【結論】

本研究で開発されたリフレクションを用いた教育プログラムで精神科看護師に介入した結果、懐疑的に思考する能力の促進が認められ、批判的思考態度の促進に一定の効果が認められた。しかし、物事に対する能動的な変化の継続性は確認できなかった。今後の課題として、教育プログラムによる継続的な介入の必要性が示唆された。